

平成27年度ボランティア活動支援事業・活動紹介

■ 特定非営利活動法人 飛んでけ車いすの会（札幌市）

事業概要

18年目を迎える当会は日本で不要になった車いすを1台ずつ丁寧に整備し、途上国の障がい児・者・高齢者に旅行者が直接届ける活動をしています。今年度は、当会の事務所と整備場所が一体になったため、近隣の人々を中心に活動を知ってもらうために、チラシを作り配布しました。また、イベント等で配布しています。

活動成果

3,000枚のうち、約700枚は会員や関係者に会報と一緒に配り、近隣にも300枚手配りしました。その結果、学生ボランティア、シニアボランティアが3名増えました。また、北星短大での講義や北星学園高校でも配布しました。その結果、北星学園高校の修学旅行（カンボジア）で車いすを10台連んでくれることになりました。

■ 手稲早起き一万歩あるく会（札幌市）

事業概要

・夏季

5月3日（日）より10月18日（日）まで毎週日曜日午前7時から原則、手稲コミュニティーセンターを起点として、4キロから10キロのウォーキングを実施しました。今回は9月13日、雨で中止を除いて24回、延2,577人参加。平均参加者は107人/回となりました。



・冬季

11月8日（日）から2月14日（日）まで毎月第2日曜日午前9時から原則、手稲コミュニティーセンターを起点として、5キロのウォーキングを4回実施しました。延277人参加、平均参加者は69人/回となっています。今年度はあと2回、3月13日と4月10日に実施の予定です。

活動成果

会員数217名（男111名（平均年齢69歳）、女107名（平均年齢67歳）、子供3名）。

多くの仲間と語りいながら、地域再発見と健康維持のため、楽しく歩いております。

毎年「手稲区健康っていいね健康ウォーキング」を区と一体となって推進していますが、今年は9月8日（火）に実施され、150名近くの参加が得られ、無事終了するこ

とができました。当会の役員・会員もスタッフとして参加しております。

毎年の市民交流ウォーキングの実施に当たり、当会から毎年2～6名のスタッフを参加しています。今年2名参加し無事に大会は終了しました。

■働く若者サポート塾（札幌市）

事業概要

これから働きたい主婦へのパソコン指導で、パソコン検定（ワープロ検定、表計算検定、文書デザイン検定、プレゼンテーション検定）の資格取得を促すことによる就職支援活動とともに同境遇の仲間との出会いが学習共有による仲間づくり支援活動を行っています。

毎週火曜日は初心者4名、毎週木曜日は中級者7名が1年間の長期間にわたり学習しました。

また、会員研修では、アンガーマネジメント入門講座を行いました。

活動成果

1. 資格取得

初心者グループでは、ワープロ検定準2級全員合格、表計算2級全員合格。中級グループでは、プレゼンテーション検定1級全員合格、ワープロ検定準1級1人合格、文書デザイン検定1級1人合格。

2. 就労支援

検定資格取得者が2名就職し、就労支援活動としての成果を上げることができました。

■ さっぽろアートビーンズ（札幌市）

事業概要

2015年12月7日から13日までの7日間、らいらっく・ぎゃらりー（札幌市中央区大通西4丁目）で、松ぼっくりを使ったミニクリスマスツリー作りのワークショップを、さっぽろアートビーンズの賛同者、協力者がボランティアで開催し、多くの市民が参加しました。

また、2015年12月16日にも1日間、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）で、ボランティアによる、ミニリース作りのワークショップを開催し、市民に喜ばれました。



活動成果

アーティストのボランティアが企画、会場設営し、ワークショップを開催したことで、多くの市民が気軽にわずかな参加費で、手作りの作品制作を体験することができました。

また、メディアに取り上げられたことで、市民のための芸術活動を知っていただくこ

とができ、今後も、札幌の文化をボランティア活動が一助となり、盛りあげたいと賛同者・協力者の気運が高まりました。

■ 小樽当事者研究会「たると」(札幌市)

事業概要

毎月、小樽市生涯学習プラザにおいて、当事者研究の学習会・交流会を実施しました。毎回10名から30名程度の発達障がい・精神障がい当事者、不登校・ひきこもり経験者、家族、学校教員、福祉職員、医療関係者、地域住民が参加し、それぞれの抱える苦勞と、自分自身の助け方を語り合い、共有した。



また、毎月の活動報告ホームページやメールで行ったり、ひきこもり当事者の家庭へ訪問活動を行ったりしたことで、幅広く活動に関する呼びかけを行うことができ、結果、多くの市民が繋がるきっかけとなった。

活動の成果

毎月、小樽市生涯学習プラザにおいて開催した当事者研究の学習会・交流会では、参加者皆が語り合うことで、誰もが苦勞の当事者であることが分かり、共に研究的に対話を重ね、つながりをつくり、地域の中に自らの居場所を見つけ出している。また、道内の当事者研究団体との共同の活動を通して、精神障がい当事者や援助者、団体との交流を深め、地域内のつながりと共に、地域同士がつながりを作るきっかけを持つことができました。中でも同じ後志管内で行われた6月と11月の研修会では、管内の団体、当事者、支援者とさらなる連携活動に向けた意見交換をすることができました。来年度以降も引き続き共同開催事業を行い、誰にとっても生きやすい地域づくりに貢献していきたいです。

■ holoholo (札幌市)

事業概要

当会は、DV被害にあった女性が傷つきから回復し自分らしさを取り戻すための活動をしています。DVの仕組みを学ぶ「心のケアをサポート講座」と、ピアサポート(自助)グループを月に数回開催しています。

DVによって別居や離婚をして1人で子育てしている方が多く、会には託児が必要です。託児があることにより、女性は「母親」という役割から離れて自分のケアは、ボランティアが丁寧



に向き合い寄り添うことによって見守りの機能を果たしています。参加者から料金を高

く取れないので、託児ボランティアへは交通費を少し支給するだけでお願いしています。

活動の成果

たくさん子どもに来てもらうことができました。

体調不良や子どもの気持ちが不安定だという理由で急なキャンセルも多いけれども、それは会の性質上、仕方ないことだと思っているので、対応して下さるボランティアには感謝しております。

今年は新規の参加者も多く、託児があって助かるという声も多くいただきました。

託児ボランティアが定着してきて、子どもも慣れることができたし、運営もスムーズになり助かっています。ボランティア交通費の女性により交通費がきちんと払えたことも大きかったと思います。

■ グリーフサポート SaChi（札幌市）

事業概要

月に1度、大切な人を亡くした子どもが集まり「ワンディプログラム」という、遊び屋おしゃべりを通じた交流の場を設けています。子どもに同行して来る保護者も別室で、話し合いの場を持っています。ワンディプログラム以外の日でも、スタッフはミーティングをしたりおもちゃの整理をしたりしています。「ワンディプログラム」への参加は無料です。



活動成果

設立当初は、「グリーフサポート」という言葉にも馴染みがなく、子どもが参加するまで時間がかかりましたが、昨年6月以降継続して子ども達が参加するようになりました。

参加してくる子ども達の保護者の方から「休みたいと言うことが一度もないので楽しみにしているのだと思う」とか、別の保護者から「楽しいと言っている。一緒に何か作りたいと言っています」というお声をいただき、励みになっています。

また、口コミやリーフレット配布、ホームページの完成で問い合わせも増えました。

スタッフの関係で当面は月に一度ですが、要望が多ければ回数を増やしたり、これらから出向いて言っの活動などを、検討する可能性があります。

■ えこりーな（札幌市）

事業概要

当日は、当会が司会進行を進め、多くの子ども達に防災や災害時にどうしたらいいかを考えてもらいました。

また、エコについて自家発電等を体験してもらいました。



活動の成果

子ども会を通じた町内外の大人達にも防災や災害時の行動を考えてもらう機会となりました。地域の人々が顔なじみになり、日ごろから声をかけあうように心掛けることにしました。

■ みちのく会（札幌市）

事業概要

東日本大震災の影響で札幌市近郊に避難しているみちのく会会員同士の繋がりを大事にしながら、札幌市民の方々とも交流できる場を提供することを第一の目的に、札幌市内で出張交流会を開催しました。さらに、避難生活が長引くうち、一時避難から定住や永住を決める世帯を増えていくことを踏まえ、特技を持つ会員に講師を依頼したり、今後の仕事などに繋がる機会となるような内容にしたりと、経済的精神的自立に向けた一助となる企画運営を目指しました。



活動の成果

震災以降、茶話会や交流会などを継続して行ってきましたが、どうしても参加メンバーが限られてきたり、思ったほど参加者が集まらなかったりと手詰まり感があったので、今年度は特に会員のリクエストに答えることを重視しました。たとえば、平日は仕事で参加できないという声に応え、土曜日開催の講座を設定したり、季節に合わせた内容の講座を企画したりすることで、広く興味を持って参加してもらえたと感じています。ただ、避難者が求める交流会が、避難者同士が集える場や地元北海道の方と繋がれる場に留まらず、リフレッシュや癒やしに繋がること、何か手作業など没頭できること、自立に繋がること、そして、北海道について知り慣れ親しむことが、多様化していることを実感しました。今後、細かいニーズにいかに対応していくかを新しい課題にしたいと思います。

■ たすけあいサークル よつば会（道央圏 江別市）

事業概要

地域の高齢者の方々に毎年、押し花を用いたハガキを作成し、季節のお便りとして出しています。

今年度は、108枚のハガキを作成・郵送しております。



活動の成果

毎年継続してハガキを送る事によって、当会の名前を知っていただくと共に、モチーフに押し花を使うことで、目に止めていただきやすく、家庭の中で話題となり、家族との会話が増えたというお話や、お礼のハガキをいただきます。

それにより、会員の励みとなり、活動の意欲にもつながっております。

■ 風の子文庫（道央圏 江別市）

事業概要

- ・風の子文庫
絵本貸出し、読み聞かせ、工作など
- ・夏のお楽しみ会
絵本読み聞かせ、遊び、金魚すくい、花くじ、すいか割大会など
- ・冬のお楽しみ会（新年会）
絵本読み聞かせ、お名前ビンゴ、絵本かるた会
- ・放課後児童（ベストフレンズ）へのお話し会（小学校1～3年）
- ・保健センター、1歳半検診時における親子への絵本啓蒙
- ・その他「おはなしいっぱい」への参加、ブックスタートへの協力



活動の成果

- ・親子の子育てに対する思いが絵本と通して育つ。
- ・留守家庭児童への読み聞かせを通して子ども達の読書力、集中力が育っている。
- ・夏のお楽しみ会では、自然の中で思いっきり、遊ぶことで健やかな心と友達力が育つ。
- ・冬のお楽しみ会では、大人と小さな子どもから小学生までがひとつになって遊ぶ楽しさ、コミュニケーション力が育まれる。

■ えべつ共助ネットワーク（道央圏 江別市）

事業概要

市内では初の「介護支援者のための支援事業」として「ケアラズ（介護者）カフェ」を開催いたしました。「支える人」を「支える」ことを趣旨として、広く市民の方で自宅で介護している人を募り、実施いたしました。高齢者だけにかかわらず、知的障がい者や身体障がい者等、様々な事情や理由で「支援者」となっている人達の思いに耳を傾け、解決までにはいかなくても、真摯に共に語らい、共に答えを模索することを目的として実施しました。実際に障がいをお持ちの小さなお子さん連れられた母親や耳の聞こえない障がい者の方、家族が認知症で介護に疲れている人等、たくさんの方々と語り合う機会が持てました。



活動の成果

今回、しないで初めてとなるケアラズカフェを開店させていただきました。市議や社会福祉協議会会長、介護保険各事業所職員、地域包括支援センターなどはもとより、地域住民や市外からのお客さんもたくさん足を運んでくれました。介護をされている方々や、実際に介護を受けている方々の声に耳を傾け、同じテーブル、そして同じ会場で時間を共有している仲間同士が、新たな繋がりを持ち、そしてこれからの明るい未来を描けたのではないかと自負しております。特に「常設化してほしい」との意見がたくさんあり、今後の大きな指標、そして課題が見えたような気がしました。

スタッフとしてはたくさんの市民が参加してくれ、来客者に対してうまく想いを引き出してくれ、ボランティアの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

■ ちょボラ六郷（道央圏 倶知安町）

事業概要

六郷親交会、町内会に在住する高齢者家族、独居老人の手助けをする活動を通して、安全安心の確認や町内会としての連携、コミュニケーションを図りながら、防犯活動や災害時の支援活動の機能を高めることを願って取り組むものである。

活動の成果

降雪量が少なく、除雪が必要としない日もあったが、必ず声かけをして、コミュニケーションがとれていること、又、窓がふさがる、ガラス戸の破損の心配等の対応に、感謝されるなど、活動の励みになっている。



■ 赤井川村配食ボランティアの会（道央圏 赤井川村）

事業概要

ボランティアが週1回（毎週金曜日）に集まり、村内の食事づくりの困難な高齢者や障がい者に、作りたての弁当を配達しています。

配達の際にサービス利用者へ直接手渡すことにより、安否確認も兼ねて行います。



活動の成果

栄養バランスの考えられた手づくり弁当を配達することができました。

引きこもりがちな高齢者にも、直接弁当を手渡すことによって、毎週確実に安否を確認することができました。

■ 滝川地区認知症の人と共に歩む家族の会（道央圏 滝川市）

事業概要

認知症の人を抱え、どのように介護すれば良いかわからず、悩み、疲れ、途方に暮れていた家族や本人が集まり、ボランティアの人たちと共にサポートする活動をしています。1人1人のニーズに合ったかわりを重視し、1人でも多くの高齢者と加増が元気に生活し、住み慣れた地域で生活できるよう、ボランティアの興味がある人、専門職の人、看護師の人が集まり、日ごろの悩みや情報交換をしています。ご家族やご本人が前向きに明るく参加できるように、レクリエーションやおしゃべりもして、穏やかな気持ちで過ごせるようサポートとしてます。



活動の成果

ご家族・ご本人はもちろん、ひだまりサロン一泊者では、笑いの絶えない1日を過ごしています。老老介護や少子化と核家族の中で人との出会いも少ない中で、参加することで、表情も豊かなになり、穏やかな時間を過ごしています。市内高齢者施設の方々とは、年2回の交流会、一年を通してたくさんの行事も皆さん、とても楽しみにしています。例会日の見学者や入会者も少しずつ増えてきています。また、市役所と合同の学習会や認知症カフェも行っており、地域住民の方々の関心も増えてきています。

人と人が出会い、悩みや相談など、つながり、支え合うことを大切に活動してきました。とにかく皆さん、笑いの絶えない1日を過ごし、穏やかな表情になり帰って行きます。

■ コンパニア・デ・マンドリーナ（道央圏 室蘭市）

事業概要

主に登別市内、室蘭市内の地域に根ざしたマンドリン訪問演奏活動で障がい者福祉施設、高齢者介護施設、病院、町内会（ふれあいいいきいきサロン、ふれあい会食会、民政児童委員研修、登別・室蘭社会福祉協議会でのコンサート等々、年15回、福祉演奏活動を行って、12年になります。



活動の成果

各施設から、マンドリン訪問演奏のボランティア要請に答えています。

メンバーには、特養施設長、老健事務局長、看護師、保育士、民生委員等、福祉経験がいます。

曲目もクラシック、歌謡曲、童謡、映画音楽と施設に合わせた構成で音楽回想・リハビリ、高齢者介護予防にも繋がっていると思われます。

■ パソコンボランティアプラザ室蘭（道央圏 室蘭市）

事業概要

室蘭・登別周辺地域での視力障がい者、肢体不自由者、聴覚障がい者等へのパソコン及びタブレット端末の操作サポート。

また、会場に来られない方への訪問サポート。

要約筆記により聴覚障がい者の社会参加へのサポート。

周辺小学校での、音声パソコン（視力障がい者使用）や要約筆記体験の出前講座実施。

室蘭社会福祉協議会主催のはつらつ福祉ボランティア講座への講師派遣等。

活動の成果

障がい者のパソコン操作は、障がいの種別によりさまざま、訪問だけで終わらず、各自宅においてインターネット電話（スカイプ）を利用することで、自宅にいながらでも操作のサポートができたことが大変喜ばれました。

子ども達に障がいの理解を広めることで将来のボランティアが育っていくと感じました。

障がいに偏見を持つのではなく、理解できるような一助になれたと思います。

■ 気仙沼キッズ北海道体験学習野球部会 苫小牧仏教会（道央圏 苫小牧市）

事業概要

気仙沼小学校の野球チーム15名、引率5名、合計20名を招き、苫小牧少年野球チーム、3チーム53名世話役、苫小牧仏教会員12名、合計85名による3泊4日の復興支援事業を行いました。

中央院にて会員が（実行委員除く）寝起きを共にし、食事は、実行委員、お寺の役員さんで調理した物をいただき、行事は、苫小牧の少年野球チームなどの協力もあり無事に終了しました。



活動の成果

私たちは3年目を迎え、仏教界の会員の中にも浸透し、各支援団体さんとの合同行事などを通して、我々仏教界との交流が始まり今までには、あまり交流がなかった人たちとの交流が生まれ、子ども達において寺院の中での生活で、座禅、朝のお勤めなどを行い、命の尊さを知る良い機会になったと思います。

■ 障がい児親子の会 ぽぽくらぶ（道央圏 登別市）

事業概要

会員とその家族、ボランティアさんが集まってクリスマス会を開催しました。

ゲーム、食事、吹奏楽鑑賞、サンタさんからのプレゼントなどを楽しみ、一日を過ごしました。

活動の成果

行事を楽しむことで親睦を深め、余暇の楽しみを知り、お互いの理解、情報交換をして、今後の生活に役立てることができました。子どもにも大人にも有意義な時間でした。



■ ナルク函館はまなす（道南圏 函館市）

事業概要

リバーラ湯の川の食堂において、毎週木曜日の13：00～15：00をコミュニティーサロン「あいらす」として地域住民に開放しています。当該サロンでは、タイトルアート・卵アートなどの手芸、折り紙、お琴の演奏、ハーモニカ演奏、聴覚障がい者と手話通訳者による手話コーラス指導、歌声喫茶など各種団体や個人にボランティア参加で協力を依頼して、多彩な催し物とカフェを組み合わせ地域住民とともに開催してきました。



サロン「あいらす」は、平成27年11月で2年を経過して地域住民にも浸透し、新たな取り組みにより参加者も増加しているため、今後とも参加者が期待する催し物の要望を聴取して、参加者が寄り楽しく過ごせるサロンの開催に取り組んでまいります。

活動の成果

コミュニティーサロン「あいらす」に参加することによって、家での閉じこもりが解消されて外出の機会が増加し、多彩な催し物により参加者や色々な人とのふれあいが広がります。また、タイトルアートや卵アート、折り紙などは指先と脳を使い、できあがったときのうれしさや楽しさの他、自分の力で作り上げた満足感があります。また、歌声喫茶等では大きく口を開け、声を出すことにより、ダイエット効果の他、ストレスの解消や口腔機能改善などの効果があります。これらを通して、高齢者が残り少ない時間を日々元気に、楽しく愉快地暮らすとともに、イキイキできて生活に張り合いが生まれ、すてきで豊かな人生に繋がるお手伝いできるものと確信しています。

■ 函館認知症の人を支える会（道南圏 函館市）

事業概要

在宅複合型施設ベレル旭ヶ岡の家において、計19回、歌と踊りのボランティアを行いました。

活動の成果

会費や助成金が減少し財政状況が悪化している中、安定的に事業を継続する大きな支えとなりました。

定期的に継続している訪問活動であり、お年寄りや施設スタッフにも定着しているが、助成対象となったことにより、新たな感覚で取り組むことができました。

助成をきっかけに初めてボランティア参加する会員もおり、活動の拡大につながりました。

■ アザレア前線（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

2015年8月3日（月）、4日（火）、5日（水）の11時から16時まで、函館みなと祭りを開催中の大門グリーンプラザ会場内でゴミ拾いを行い、会場の美化に尽力しました。回収したごみのうち、ペットボトル・空き缶は回収業者に換金していただき、その収益はすべて被災地支援団体・一般社団法人ReRootsに義援金として寄附しました。また、ReRootsが育てた野菜を仕入れ、みなと祭りで販売しました。「被災地の野菜」を購入することで支援に繋がることを伝えることを目指して、売上は義援金としてReRootsに寄附しました。また、ゴミ拾い活動に関しては参加者は一般市民にボランティアとして参加していただき、その他に近隣商店等から空き缶・ペットボトルも回収しました。



■ 七飯町朗読ボランティアあゆみの会（道南圏 七飯町）

事業概要

あゆみの会創立20周年記念朗読会開催にあたり、実行委員会を立ち上げたのが6月です。内容や時期、朗読学習会の計画、PRの方法と時期、リハーサルや呼びかけ、町民への周知に会一丸となって取り組みました。10月17日当日、1人1人の熱意に予想以上の100名を超える来場者があり感激しました。特に会の特色というべき、視覚障がい者2名も朗読に参加していただきました。会員18名全員での発表は、素朴ながらも人々の心に染み渡ったようで温かな拍手をいただきました。目の不自由な方への朗読サービスをするという域を超えて、町民と会員とリスナーが一体となって楽しめた朗読会となりました。



活動の成果

当日来場者のアンケートにも「楽しかった」又「次回を期待します」との記述が多く、「あゆみの会」そのものの存在と活動内容とりまく環境の理解がなされたと思います。

広報、北海道新聞の報道の力も大きく、当日も又発表会を過ぎてからも町民から励ましの言葉をもらい一同喜んでおります。

11月3日、文化の日に当会が七飯町功労者として認められ、表彰状と記念品、銀バッジをいただき20周年の良き記念となりました。

■ ボランティアサークル すずらんグループ（十勝圏 音更町）

事業概要

- ・通年でリングプル、ペットボトルキャップの収集を実施しました。年2度に分けボトルキャップ等を洗浄し、仕分けをしております。
- ・福祉まつり、あんじゅ祭り等、施設行事の手伝い。
- ・喫茶はっぴい〜のボランティア。
- ・ボランティアセンターからの依頼を受け活動。



活動の成果

- ・リングプル（平成27年度分 42.9キログラム）
- ・ペットボトル（平成27年度分 11,430個）
- ・活動に賛同しグループ員が1名増えました。

■ アダプトプログラム活動団体チーム YKB（十勝圏 上士幌町）

事業概要

上士幌町アダプトプログラム（里親制度）に基づく公共施設の環境美化活動の実施し、町内の国道273号の花壇整備をしました。

- ・花壇の土起こし／花苗（1年草）の植付け（5月30日実施）
- ・花壇の水やり、除草等の維持管理（6月～10月、月2回程度）
- ・花の撤去（10月18日実施）
- ・花壇整備用道具の整備、収納（11月29日）



活動の成果

花壇の整備により環境美化が図られ、町民はもとより、国道を通過する多くの皆さんの心を和ませるなど、まちづくりに大きく寄与と思います。

■ ボランティアたんぼぼの会（十勝圏 広尾町）

事業概要

平成27年5月9日、11時30分より1人暮らし高齢者を82人、広尾高校ボランティアのポプラ会7人、たんぼぼの会員19人、ラッコ座7人、来賓に広尾町長、議長、社会福祉協議会会長を招き118人でお花見会を実施しました。

リーダーの開会挨拶で開始し、来賓による挨拶をいただきました。サブリーダーが総合司会で進行しました。

会食の献立メニューを考え、前日からの仕込みをした献立を大勢で和気藹々と食べてもらいながら交流を深めていきました。余興としてラッコ座の人形劇『屁っこき嫁さん』反応があり笑い声を渦巻いていました。

会員の踊りや参加者、来賓のカラオケで楽しみました。



活動の成果

孤立し易い環境で生活している1人暮らし高齢者を対象に事業として実施しています。

この事業では人と交流することを体験し、人間関係を広め、日常生活でも人との輪が広がり、友達として行き来をしていることが、この事業を継続して行く意義があるように思われます。

会で創意工夫をした献立を大勢で食事することにより人の繋がりを広め、楽しみ、元気をもち帰ってもらうことが、会員にもやり甲斐のある事業でもあります。特に、解散時に笑顔で『ありがとうございました』と頭を下げて帰られる姿を拝見し、ほっと安堵させてもらいました。参加者のすてきな笑顔が会員のエネルギーになっています。

■ 釧根地区 ADHD・LD・PDD 懇話会中標津支部（釧路・根室圏 中標津町）

事業概要

今年度、当団体では大きく3つの事業を実施しました。平成27年8月7日には「どら塾」という発達障がいの兄弟を持つ子どもへの学習指導やレクリエーション活動を行いました。北海道教育大学釧路港の先生と学生ボランティアの協力で実施されました。

平成27年9月5日は北見市の「バースディブ」さんの協力でケーキ作りのレクリエーションを行いました。参加費無料で当団体会員問わず、15組36名の親子が参加しました。

平成28年2月20日は北海道大学医学部特任助教授をお招きし教育講演会を実施し



ました。「神経科学から見た発達障がい」を表題として約1時間半をお話しいただきました。

活動の成果

「どら塾」では、発達障がいをもつ児童及び兄弟が事前に教育大の学生さん達に要望していた勉強やスポーツ、遊びなど思い思いの活動を楽しむことができました。保護者も先生や参加した支援者に日頃の悩みを相談し、保護者同士で情報交換をすることができました。

「ケーキ作り」ではパティシエ指導の下、親子でオリジナルのケーキを作り、それぞれの家庭に持ち帰り家族で楽しんだようでした。

「教育講演会」では幅広い参加者が発達障がいに関する最新の研究成果や支援法について研修する場を設けることができました。研修後、講演で紹介された教材を家庭や学校で早速導入したという報告もあり、発達障がいの療育や特別支援教育に貢献することができました。

■ 利尻町女性団体協議会（道北圏 利尻町）

事業概要

少子高齢化社会の中で、利尻町も例外ではなく65歳以上の人口も35%以上となり、高齢化が進み独居世帯が多く見られる現状があるため、手づくり弁当を作成し昼食時間に直接配達することにより、会話する中で些細な気づきと声かけ・安否確認を地域・団体が行っていくことで、独居世帯の高齢者も安心して暮らせる地域となることを目的としています。



活動の成果

申し込みの確認時点から待ち遠しく期待している方もおり、予想以上の申込件数となったため、完成時間が予想より遅くなりましたが目標の時間内にすべて配布を行うことができました。

一軒ずつ手渡しにて回ることにより、会話を楽しむ高齢者の方々が多く、会話の中から困っていることや不安なことなども少し会話の中から聞くことができました。

団体にて対応できることは今後の課題とし、まちづくりに関する会議等では内容を精査して発信していければと思います。

■ 石北本線利用活用推進連絡会（オホーツク圏 北見市）

事業概要

地方鉄道の利活用によって沿線地域の振興と連携を図りながら、地域経済を活性化し地域公共交通を維持しながら次世代につなげていこうとする活動の一環です。

今年度は、「石北本線・遠軽駅開設100周年記念」にちなんで、記念事業施設内で記録映画「鉄道王国北海道」の上映会を催し、沿線住民に鉄道の価値を再認識していただくとともに、鉄道をもっと身近な存在に感じてもらおうとするものです。

駅前横のイベント会場「ふぁーいらいと」では、遠軽町在住の方の自作収集された鉄道列車の模型も特設ブースに展示され、併設のおもいで写真展とともに昭和50年代の鉄道王国北海道の様子を自費で製作した貴重な記録映画が上映され、予想を超える多くの来場客で賑わいました。



活動の成果

鉄路でつながる石北本線沿線駅・遠軽町のみなさんと開業100周年記念行事に参加できたことは今後において、地域が一体といったなり連携した取り組みをするための良いきっかけとなりました。沿線住民の足として路線存続を願う人たちとの地域を越えて次の世代に鉄道を残そうとする意識の醸成に役立てたのではないかと思います。遠軽駅の無人化が現実となった今こそ、公共交通機関の重要性を改めて問い直すとともに、鉄道の新たな利活用の方策を新幹線の来ないローカル線で、ここでしか味わえない旅を考え出す必要性にも気づかされました。

今後とも地方鉄道の存続と復活に向けた住民主体の取り組みを継続したいと考えております。

■ 丸瀬布昆虫同好会（オホーツク圏 遠軽町）

事業概要

○特定外来種（ウチダザリガニ）駆除

丸瀬布川（武利地域）において特定外来種のウチダザリガニの駆除を行いました。

- ・異年齢の班を組織し、協力しながらウチダザリガニを捕獲しました。
- ・捕獲したウチダザリガニの計測を行いました。

○クリスマスリース・繭玉づくり

丸瀬布武利の農村多目施設においてクリスマスリース・繭玉づくりを行いました。



- ・事前に材料集め（ブドウなどのつる・ミズ木など）の調達のため、車両を借り上げ、採取・形を整え乾燥保管した。
- ・子ども達は、リース材やミズ木に思い思いの飾り付けを行いました。

活動の成果

○特定外来種（ウチダザリガニ）駆除

近年異常繁殖が問題となっているウチダザリガニだが、丸瀬布地域においても在来種のニホンザリガニの姿がなく、駆除が課題となっている。子ども達の身近にいる外来種を観察採捕することにより興味を持ち、環境の保全の難しさ、大切さを学ぶことができました。水場での活動であることから、異年齢集団の中で協力し合いながらの活動でした。

○クリスマスリース・繭玉づくり

リース・繭玉は、子ども達の自主性を活かして装飾させ、独創的な作品を作らせました。はさみ、カッターナイフ、グルーガンなどを使い方・注意することをリーダーに指導し、自分だけではなく周りの人に気を使って製作させました。高学年が、低学年の面倒をよく見ていました。
